

1章 マスタークラス・公開レッスン実施報告

1章 マスタークラス・公開レッスン実施報告

1-1 概要

本事業では、プロフェッショナルダンサーとしての活躍が期待される若手を主な対象として、2015年度より継続して海外優秀指導者によるマスタークラスを実施している。新進ダンサーが素晴らしい芸術家に成長していくためには、多くの優れた指導者との出会いが必要であり、本事業によるマスタークラスは多くのダンサー・指導者に新たな気づきをもたらしている。

本年度は、新型コロナウイルスの影響により海外招聘を伴わない形での事業実施とし、3名の日本人優秀指導者（山本康介氏、酒井はな氏、塩谷奈弓氏）によるマスタークラスと、山本康介氏の指導による劇場での公開レッスンを開催した。

1-2 山本康介氏によるマスタークラス・公開レッスン

講師紹介

山本 康介 KOSUKE YAMAMOTO

美佳バレエスクールにおいて山口美佳に師事。

1996年13歳という若さで名古屋世界バレエ&モダン・ダンスコンクールにおいて審査員特別賞、ポーランド国立オペラ劇場からニジンスキー賞を受賞。

1998年英国ロイヤル・バレエスクール入学。主席で卒業しニネット・デ・ヴァロワ賞も受賞。

2000年バーミンガム・ロイヤル・バレエ入団。数々の作品でプリンシパル・ソリストを務め、バレエ団の公演においても振付を手がける。

2010年帰国後は、ダンサー、演出家、指導者として活動し、『プレミアムカフェ』（NHK）『ローザンヌ国際バレエコンクール』（NHK）の解説者としても出演。



● マスタークラス実施概要

2022年3月8日（火）、11日（金） スターダンサーズ・バレエ団（2クラス×2日）

2022年3月14日（月）～18日（金） 東京シティ・バレエ団（2クラス×5日）

2022年3月22日（火）～25日（金） 牧阿佐美バレエ団（2クラス×4日）

指 導：山本康介

● 公開レッスン実施概要

日 時：2022年3月7日（月）15:00～17:00

会 場：東京文化会館 大ホール

指 導：山本康介

司 会：安達悦子（東京シティ・バレエ団 芸術監督）

ピアニスト：稲葉智子

実 技：東京シティ・バレエ団のダンサー 計27名

見学者：計105名（事前申込制・全席指定・無料）

バレエ指導者：53名

バレエ学習者・ダンサー：31名

ダンサーの身体のメンテナンスに携わる方：8名

バレエピアニスト：4名

学習者の付き添い：6名

その他（バレエ関連の出版・経営）：3名

ダンサー育成環境の開発と整備の一助とすべく、プロを目指すバレエ学習者・バレエ指導者（ピアニストを含む）・ダンサーの身体のメンテナンスに携わる方等を対象に、公開レッスンの見学者募集を行った。当日会場にお越しいただくことが困難であった全国の学習者・指導者にも参考としていただけるよう、公開レッスンの一部については、日本バレエ団連盟のYouTubeチャンネルでの期間限定配信（無料）を予定している。（2022年3月16日時点）

<公開レッスンの様子>



©Takashi Shikama

<山本康介氏からのメッセージ・コメント> ～公開レッスン後のトークより～

- 日本人の真面目なメンタリティーが、バレエにおいてはよく見えないことがある。注意されたことを真面目にやろうとするなど、一生懸命さが見えてしまいがちだが、楽しんで表現した方が舞台上で映え、お客さまに喜んでいただくこと、芸術点を高めることにもつながる。真面目な部分と遊ぶ部分の分別を持ち、上半身は自由に、抑揚をつけて表現できるとよい。
- 正しい身体の使い方や、きちんとしたパによって、できる表現がある。たとえバレエ団における階級や立場が変わっても、本人の踊りも身体も変わらない。自分の苦手なところと向き合わないといずれ限界が来てしまう。そのため、基本となる身体の使い方について、厳しく何度も伝え続けている。
- バレエの歴史は、各地域でのその時代におけるお客さまの需要のもとにつくられてきたもの。今後の日本バレエ界の発展を考えると、バレエを”欧米から入って来たもの”と感じすぎず、日本のスタイルをつくっていくことも大切であると思う。日本でできる創作活動を続け、日本でしか見られない作品も作っていくことが、基盤の発展にもつながるのではないだろうか。
- 戦争を繰り返してしまう人間の愚かさに心を痛めている。芸術は、人々の心が自由であってこそ成り立つもの。争いがなくなる分子を、芸術の中から育てていきたい。
- バレエダンサーになりたい人たちと、バレエの公演を見たい人たちが両方いて、バレエの公演活動が成り立つ。お客さまが育つことにつながる活動も行っていきたい。

<公開レッスン見学者の声>

- 指導が的確で分かりやすく、大変勉強になった。見本をきちんと見せてくださり、日本人、特に若いダンサーに不足している上体の使い方の指導など、良い学びの場となったと思う。クラスの合間に、カンパニーダンサーとしての在り方（舞台上で踊る上で必要な事など）についての説明もあり、ダンサーの意識向上にもつながった。（バレエ団指導者）
- クラス中に自身の身体を整えることが出来て、音の取り方、in、outのアクセントの取り方も自然に入ってくるシンプルなアンシェヌマンが印象に残った。ダンサーに対する注意が簡潔で、効果的に声掛けをされていたことも参考になった。（バレエ団指導者）
- アテールの重要性、プリエを正しく行うことの重要性を改めて実感した。舞台の使い方もとても参考になった。（バレエ指導者）
- お客さまへ魅せるということ、自分らしさを作品で出すための日々のレッスンでの取り組み方など、大切にされていることがよくわかり、貴重な機会だった。（バレエ指導者）
- 公開レッスン後のお話に胸を打たれた。日本のバレエ界に携わる身として、自分の身近なところからでもより多くの方にバレエに興味を持っていただけるような活動をしていきたいと思った。（バレエ指導者）
- クラスレッスンでどんな音楽を使うことが有効なのか知ることができた。踊りに寄り添った、お洒落で安定感のある伴奏もとても勉強になった。（バレエピアニスト）
- 今回のような公開レッスンをたくさん開催してほしい。またコンテンポラリーの公開レッスンもぜひ開催してほしい。（バレエ指導者）

1-3 酒井はな氏によるマスタークラス

講師紹介

酒井はな HANA SAKAI

5才よりバレエを始め、畑佐俊明に師事。1988年橘バレエ学校に入学、牧阿佐美、三谷恭三に師事。

1993年 牧阿佐美バレエ団入団、18才で『くすみ割り人形』主役デビュー。

1997年 開場とともに新国立劇場開場バレエ団に移り、柿落とし公演『眠れる森の美女』にて森下洋子、吉田都と競演。以降同団プリンシパルとして数々の初演を含む主演を務める。優れた表現力と高い技術に品格の備わった、日本を代表するバレエダンサーのひとり。クラシックバレエを中心にコンテンポラリーダンスやミュージカルにも出演。

2013年 島地保武と共にダンス・ユニット Altneu <アルトノイ>を立ち上げ。

レパートリーは古典バレエからN・デュアト、M・ゲッケ、C・シュクップ等の現代作品まで幅広い。

2009年芸術選奨文部科学大臣賞、2015年第35回ニムラ舞踊賞、2017年紫綬褒章、2018年第39回橘秋子賞特別賞受賞。



©IKEYA Tomohide

● マスタークラス実施概要

対 象：井上バレエ団

期 間：2022年3月15日（火）、16日（水）、21日（月・祝）、22日（火）（2クラス×4日）

指 導：酒井はな

1-4 塩谷奈弓氏によるマスタークラス

講師紹介

塩谷奈弓 NAYUMI SHIOTANI

野間康子、牧阿佐美、法村牧緒、石川恵津子に師事。

1982年全国舞踊コンクール第1位、文部大臣賞受賞。1988年全日本バレエコンクール入賞第1位、IBM賞受賞。1989年こうべ全国洋舞コンクール第1位受賞。ローザンヌ国際バレエコンクールセミファイナリスト。1997年全国舞踊コンクール・パドドゥ部門第2位、バレエ奨励賞受賞。

1990年ニューヨークで開かれた日米合同バレエ公演のゲストダンサーとして「パキータ」を主演。1990年牧阿佐美バレエ団入団。1995年アートバレエ難波津に入団。同団のプリンシパルとして活躍。1997年日本バレエ協会関西支部公演「ドン・キホーテ」の主演キトリ、98年「バラの精」を踊る。その他青山バレエフェスティバル、日本バレエ協会公演等で活躍。1999年野間バレエ団入団。

2016年 BalletClassDeco を開講。

2021年 PIBC（パシフィック・インターナショナルバレエ・コンペティション）プレパラトリー 広島、大阪開催の審査員を務める。

現在、幼児から大人まで生徒多数の指導にあたる。



● マスタークラス実施概要

対象：貞松・浜田バレエ団

期間：2022年3月28日（月）～29日（火）（1クラス×2日）

指導：塩谷奈弓